

功 績 概 要

学 校 教 育 功 勞

森下 善郎（もりした よしろう）（三重県立四日市農芸高等学校教諭）

昭和 61 年 4 月から永年にわたり、県立四日市農芸高等学校の教諭として本県の農業教育の充実に貢献した。

特に、大学等への進学指導に早くから取り組み、農業教員を目指す生徒の指導に尽力し、指導を受けた生徒が県内の農業高校の教員として多数活躍している。

また、将来を担う専門技術者（スペシャリスト）の育成に努め、生徒の進路希望の実現に尽力した。

平成 27 年度には、指導を受けた生徒が第 43 回毎日農業記録賞〈高校生部門〉で、優秀賞（全国 10 位以内）に選出された。この表彰は、農業への思いや提言をつづった優秀な作品を表彰するもので、高校生部門が創設（平成 15 年）されて以来、本県の高校生が優秀賞を受賞するのは初めてのこととなった。

平成 27 年度に開催された「第 25 回全国産業教育フェア三重大会」では、即売部門や農業高校の催事及び展示などの企画・運営等を担うとともに、実行委員会事務局幹事会のリーダーとしての重責を果たし、大会を成功へと導いた。

学 校 保 健 功 勞

小林 詔三（こばやし しょうぞう）（学校医、園医）

昭和 54 年 4 月から平成 11 年 3 月まで松阪市立中部中学校校医、平成 11 年 4 月から現在まで松阪市立松尾小学校学校医及び松阪市立松尾幼稚園園医として、41 年間の永きにわたり児童・生徒の定期健康診断、健康相談等に従事し、学校医、園医として活躍している。

この間、児童・生徒の健康維持、疾病予防、学校環境衛生の維持、改善等に関し適切な助言と指導を行うなど、積極的にその職務に取り組んでいる。

誠実な人柄で、児童・生徒、教職員、ならびに保護者の信頼も厚く、優れた学識と豊かな経験を基に、その専門性を遺憾なく発揮し、学校保健の向上発展に寄与した功績は大きい。

平成 20 年 4 月から平成 28 年 6 月の間、松阪地区医師会裁定委員を務め、松阪地区医師会の活動をはじめ、広く地域医療活動にも尽力している。

教育行政功勞

山田 康彦(やまだ やすひこ)(元三重県教育改革推進会議会長、三重大学特任教授)

平成 19 年 8 月から平成 21 年 7 月まで、三重県教育改革推進会議委員、平成 21 年 8 月から平成 29 年 9 月まで同会長を務め、会の総括という重責を担い、本県の教育における現状と課題の整理、具体的な施策の提言に尽力した。

いじめや不登校などの問題、少子高齢社会の進行、国際化・グローバル化の進展などにより教育をめぐる課題がますます複雑・多様化する中、中長期的な視点から本県教育の目指すべき姿とその実現に向けた施策の方向性を示す指針である「三重県教育ビジョン」(計画期間：平成 23 年度～平成 27 年度)の策定に尽力した。

教育格差と貧困の連鎖、子どもたちの安全確保などの新たな課題に対応するための指針である新しい教育ビジョン(計画期間：平成 28 年度～平成 31 年度)の策定にあたって、引き続き重要な役割を果たした。

平成 19 年 7 月から平成 24 年 3 月までの間、三重県中高一貫教育推進会議の会長として、本県における中高一貫教育のあり方を検討するとともに、連携型中高一貫教育において県立高等学校と公立中学校が連携した教育活動を進めることに大いに貢献した。